

日本思想史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本思想史特論Ⅰ	高僧伝から読み解く日本仏教	2	引野 亨輔	2学期	月	4	1	日本思想史特論Ⅰ
日本思想史特論Ⅱ	「近代性」の問題から日本思想史を再考する	2	片岡 龍	1学期	月	4	2	日本思想史特論Ⅱ
日本比較思想史特論Ⅰ	日本の生命観・自我観再考……中国・朝鮮との比較を通して	2	小倉 紀蔵	集中(2学期)			3	日本思想史特論Ⅲ
日本文化思想史特論Ⅰ	日本近代思想史研究	2	岡安 儀之	1学期	金	2	4	日本思想史特論Ⅴ
日本思想史総合演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ－2	2	片岡 龍	1学期	水	4	5	日本思想史研究演習Ⅰ
日本思想史総合演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ－2	2	引野 亨輔、片岡 龍	2学期	水	4	6	日本思想史研究演習Ⅱ
日本思想史研究演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	片岡 龍	1学期	水	5	7	日本思想史研究演習Ⅲ
日本思想史研究演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔、片岡 龍	2学期	水	5	8	日本思想史研究演習Ⅳ

科目名：日本思想史特論 I / History of Japanese Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：引野 亨輔 (准教授)

講義コード：LM21401, **科目ナンバリング：**LJS-PHI601J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本思想史特論 I 】

1. 授業題目：

高僧伝から読み解く日本仏教

2. Course Title (授業題目)：

Deciphering Buddhism in Japan through biographies of high ranking monks

3. 授業の目的と概要：

日本社会に仏教信仰が定着するとともに、宗祖・高僧に関する多くの伝記が記されていった。

高僧伝は、文字通り徳のある高僧を顕彰するための伝記であるから、歴史資料としての客観性には乏しい。

しかし、高僧伝を無視して庶民層の仏教信仰は読み解き得ないし、また高僧伝に虚構が施される過程へと目を向けることで新たな史実が見えてくる可能性もある。

そこで、本授業では、幾つかの高僧伝とそれらに関する諸論文を取り上げ、受講生の発表・討論を通して、日本仏教史のより深い考察を試みる。

4. 学習の到達目標：

伝記資料を意識的に読み解き、日本社会の文化的・思想的特質を探究できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンスー虚構が現実を超える時ー

第2回：古代の聖徳太子伝説ー『日本書紀』のなかの太子ー

第3回：中世の聖徳太子伝説ー四天王寺と法隆寺ー

第4回：近世の聖徳太子伝説ー讃えられる太子・批判にさらされる太子ー

第5回：中世・近世の空海伝説ー四国遍路の成立ー

第6回：中世の法然伝説①ー門弟たちの絵伝作成ー

第7回：中世の法然伝説②ー法然の女人救済ー

第8回：近世の法然伝説ー遠忌と加謚の近世浄土宗ー

第9回：中世の親鸞伝説ー親鸞伝説と覚如の苦心ー

第10回：近世の親鸞伝説①ー玉日姫伝説と考証主義ー

第11回：近世の親鸞伝説②ー本山の親鸞・庶民のなかの親鸞ー

第12回：近世の親鸞伝説③ー正統なる伝説のゆくえー

第13回：民間芸能のなかの高僧たち①ー掛幅絵伝と絵解きの隆盛ー

第14回：民間芸能のなかの高僧たち②ー江戸の悪霊祓師・祐天ー

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

担当回の発表 40%、平常授業での参加度 30%、レポート 30%

7. 教科書および参考書：

教科書：使用する資料や論文については授業中に適宜指示する。

参考書：『変貌する聖徳太子』（吉田一彦編、平凡社）、『語られた親鸞』（塩谷菊美、法蔵館）、『江戸の高僧伝説』（堤邦彦、三弥井書店）

8. 授業時間外学習：

発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

また、各回ごとに適宜指定された資料・論文の読解を進める。

9. その他：なし

科目名：日本思想史特論Ⅱ／History of Japanese Thought(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：片岡 龍（教授）

講義コード：LM11401， **科目ナンバリング：**LJS-PHI602J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本思想史特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

「近代性」の問題から日本思想史を再考する

2. Course Title (授業題目)：

Reconsidering the history of Japanese Philosophy from the problem of "modernity"

3. 授業の目的と概要：

日本の思想を「近代性」の問題から新たに捉え直そうとする挑戦的研究（A テッサ・モーリス＝スズキ『日本を再発明する：時間、空間、ネーション』、B 酒井直樹『死産される日本語・日本人：「日本」の歴史-地政的配置』）を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. 学習の到達目標：

日本思想史における「近代性」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・討論形式で進める。

第1回：A「日本」

第2回：A「自然」

第3回：A「文化」

第4回：A「人種」

第5回：A「ジェンダー」

第6回：A「文明」

第7回：A「グローバリゼーション」

第8回：A「市民権」

第9回：B「近代の批判」

第10回：B「国民共同体の「内」と「外」

第11回：B「国際社会のなかの日本国憲法」

第12回：B「遍在する国家」

第13回：B「歴史という語りの政治的機能」

第14回：B「死産される日本語・日本人」

第15回：B「「西洋への回帰」と人種主義」

定期試験：なし

6. 成績評価方法：

平常点 70%（出席 30%、発表・討論 40%）、レポート 30%

7. 教科書および参考書：

教科書：授業中に適宜資料を配付します。

参考書：「〈伝統と近代〉を問い直す satyāgraha(真理把握)-病める欧米的 modernity の末路に際して」（板垣雄三著、『霊性と平和』3）

8. 授業時間外学習：

発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

9. その他：なし

科目名：日本比較思想史特論Ⅰ／Comparative history of Japanese thought(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)、 単位数：2

担当教員：小倉 紀蔵（非常勤講師）

講義コード：LM98804、 科目ナンバリング：LJS-PHI603J、 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本思想史特論Ⅲ】

1. 授業題目：

日本の生命観・自我観再考・・・中国・朝鮮との比較を通して

2. Course Title (授業題目)：

Rethinking Japanese Views of Life and Self ...A Comparative Study with China and Korea

3. 授業の目的と概要：

平安時代以降、近代にいたるまでの日本の生命観・自我観に関して、その代表的なものをいくつか取り上げて考察する。その際に、中国や朝鮮との比較の視点を重視する。具体的には、『源氏物語』、藤原定家、道元、西田幾多郎、鈴木大拙、和辻哲郎、丸山真男などに関して議論する。比較の対象としては孔子、朱子学、陽明学（以上中国）、朝鮮朱子学、北学、東学、主体思想（以上朝鮮）などを重点的に取り上げる。

4. 学習の到達目標：

日本思想を考察する際に、いわゆる日本という枠組みを超えて中国・朝鮮との比較という観点を重視する姿勢を身につけること。とくにこれまで視野の外に置かれがちだった朝鮮との比較は、今後の日本思想研究にとって重要性を増すであろう。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

これまで人類が明確に認識してきた生命観・自我観とは異なる種類の生命観・自我観があるのではないか。授業ではまずこのような問題提起をする。

それはたとえば生命観でいえば、肉体的・生物学的生命でも、キリスト教的な霊的・精神的生命でもない、ひととひとの「あいだ」、ひととものの「あいだ」に立ち現われる生命である。本居宣長が『源氏物語』の核心として「もののあはれ」といったのは、このことを指していると思われる。

生命だけでなく、自我やもの、こころ、身体に関しても、このような「あいだ」に立ち現われる種類のものがあると思われるし、日本思想はそのことにきわめてコンシャスであったと思われる。

このような日本思想の特色は、たとえば中国や朝鮮と比較してみると、どのように説明できるのか。授業では以下のような具体的な事例を重点的に取り上げつつ、ほかの思想にも随時言及する。

第01回 日本の生命観・自我観・もの観・こころ観・身体観の様々な事例

第02回 検討の方向性：大森荘蔵の「物と心」論の再解釈

第03回 中国儒学および朝鮮思想における生命観・自我観の概説

第04回 『源氏物語』の「あはれ」と『論語』の「仁」

第05回 藤原定家における自我と自然

第06回 道元の「脱落」と朝鮮禅

第07回 西田幾多郎の「場所」「述語」と陽明学、朱子学

第08回 朝鮮の東学思想

第09回 鈴木大拙の「日本的霊性」と陽明学、東学（朝鮮）

第10回 鈴木大拙のコロンビア大学講義について

第11回 朝鮮の北学思想

第12回 北朝鮮の主体思想

第13回 丸山真男の「近代」と北学（朝鮮）、主体思想（北朝鮮）

第14回 日本語の美意識と朝鮮語の美意識

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

平常点（出席および議論）50％、レポート50％。

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

配布されたプリントその他の文献を熟読しつつ、自分独自の思考を構築する努力をする。

9. その他：なし

科目名：日本文化思想史特論Ⅰ／History of Japanese Culture Thought(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：岡安 儀之（助教）

講義コード：LM15201， 科目ナンバリング：LJS-PHI604J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本思想史特論Ⅴ】

1. 授業題目：

日本近代思想史研究

2. Course Title (授業題目)：

Research of Modern Japanese Intellectual History

3. 授業の目的と概要：

日本近代思想史研究に関する代表的な論文を読む。発表者は担当論文を紹介し、参加者全員でその内容について討論を行う。
以上のような作業を通して、当該分野の研究成果を理解するだけでなく、先行研究の問題点も明示できる能力を養う。

4. 学習の到達目標：

日本近代思想史に関する研究動向を把握し、その現状と課題について説明することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) オリエンテーション

2) 報告と質疑応答

3) 報告と質疑応答

4) 報告と質疑応答

5) 報告と質疑応答

6) 報告と質疑応答

7) 報告と質疑応答

8) 報告と質疑応答

9) 報告と質疑応答

10) 報告と質疑応答

11) 報告と質疑応答

12) 報告と質疑応答

13) 報告と質疑応答

14) 報告と質疑応答

15) 報告と質疑応答

6. 成績評価方法：

平常点（報告内容・質疑応答への積極的参加の有無）[70%]

出席点 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書：授業時に配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回必ず論文を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。

9. その他：なし

科目名：日本思想史総合演習Ⅰ／History of Japanese Thought(Integration Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：片岡 龍（教授）

講義コード：LM13401， 科目ナンバリング：LJS-PHI605J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本思想史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅰ－2

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought1

3. 授業の目的と概要：

研究参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. 学習の到達目標：

日本思想史の研究手法の会得と深化

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

6. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

ブレジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

9. その他：なし

科目名：日本思想史総合演習Ⅱ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍（教授、准教授）

講義コード：LM23401， 科目ナンバリング：LJS-PHI606J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 日本思想史研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅱ－2

2. Course Title（授業題目）：

Varies issues of history of Japanese thought2－2

3. 授業の目的と概要：

演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。

4. 学習の到達目標：

研究論文の作成

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

6. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

ブレジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

9. その他：なし

科目名：日本思想史研究演習Ⅰ／History of Japanese Thought(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：片岡 龍（教授）

講義コード：LM13501， 科目ナンバリング：LJS-PHI607J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本思想史研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought1

3. 授業の目的と概要：

研究参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. 学習の到達目標：

日本思想史の研究手法の会得と深化

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

6. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

ブレジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

9. その他：なし

科目名：日本思想史研究演習Ⅱ／ History of Japanese Thought (Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍（教授、准教授）

講義コード：LM23501， 科目ナンバリング：LJS-PHI608J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 日本思想史研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title（授業題目）：

Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：

演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。

4. 学習の到達目標：

研究論文の作成

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

6. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

ブレジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

9. その他：なし